

《SSWのじぶやき》不登校の子への支援

子どもが不登校にならないためには、休みだした早期の段階で多くの関係者が関わっていく。早期発見、早期対応、が大切だと言われます。ようすを見ているうちに事態が長引き、やがて昼夜逆転の生活になると回復がますます困難になります。

さて、本年2月不登校の子の支援のため、市町村の教育支援センターなど、学校以外の場で学ぶ機会の確保が国や自治体の「責務」とされる「教育機会確保法」という法律が施行されました。当初は不登校の子がフリースクールや家庭などで学ぶことも義務教育と認める内容でしたが、これに対し「学校に行かないことを安易に認めるべきではない」と

「学校に行かないことを助長する」などの反対意見が出て義務教育案は削られました。

この法律に対して保護者からは「理解を示してくれてうれしい」「不登校でも学びたい気持ちはあるので、学ぶ機会があるのはとてもいい」という肯定的なものや「学校に行かなくてもいいと言われても将来が不安」「偏見はなくなるしないし、学校では問題行動という扱いのままだ」となどという批判的な意見もあります。

関係者が支援会を開いて登校できるための支援をいろいろな方面から進めるとともに、学校以外での学びの道を見つけるサポートを行う必要があります。

津野町教育委員会
SSW(スクールソーシャルワーカー)
久寿義人



【相談室】

かわうそ図書館2階

(B&G海洋センターでも相談可能)

火・金曜の午前9時30分〜午後4時30分

電話番号：0800-8635-3372

「ALTの体験録〜!」

VOL.36

トマスレイチェル ハナ
(イギリス ウェールズ出身)

11月25日に香川県の直島に行きました。しかし、今回の旅は観光ではなく、ボランティアとして行きました。直島小中学校は毎年「Meet the World」(世界に会おう)というプログラムを行っています。これは、小中学生が勉強した英語を使って世界中の人びとと会うためのプログラムです。

私ははじめて参加しましたが、四国のALTのコミュニティでのプログラムは評判がよくて、生徒に会えるのをとても楽しみにしていました。当日、午前中は生徒の活動に参加しました。前半は4年生の「世界のレストラン」のお手伝いをしました。生徒は店員の役になって、それぞれの国のメニューをお客さんに見せて料理を提供します。英語で「What would you like?」「Big or Small?」「Pound3 please」も上手に自信を持って言えました。

後半には5・6年生の活動に参加するために、4年生が私を他の教室に連れて行ってくれました。5年生の「ゲーム祭り」では、カルタやボール投げなどのゲームをして、スタンプを集めました。そのスタンプを3つ集めたところ、き

れいな折り紙の鶴などと交換できました。6年生は「旅行会社」をしていました。みんな

なはそれぞれの国を代表して、お客さんに質問をしたり、答えたり、国の紹介をしたりしていました。

お弁当を食べるから、午後の「家プロジェクト」のツアーが始まりました。中学1年生がツアーガイドの役になって、「家プロジェクト」の7か所に連れて行ってくれたり、本村地域の好きな場所について英語で紹介してくれたりしました。各場所でも小中学生は、ジェスチャーを使いながら家を可愛く説明してくれました。

「Meet the World」はすごく楽しかったです。生徒の英語能力に感銘を受けて、これから津野町の英語の授業でもこのような活動ができる限りしていきたいと思っています。



愛の献血

とき 2月6日(火)

9:30~11:00 西庁福祉交流センター

13:00~14:00 役場本庁舎

15:30~16:30 保健福祉センター「里楽」

